

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°21 ドメーヌ・ディディエ・モンショヴェ

生産地方：ブルゴーニュ

新着ワイン3種類♪

AC オート・コート・ド・ボーン 2018 (白)

2018年は、収量&品質ともに恵まれた当たり年！醸造面も酵母に勢いがあつたおかげで全く問題がなかった。ミレジムのには前年の2017年と良く似ているが、2018年の方が、香りがフレッシュですすでに味わいにまとまりがある。「ビオディナミの畑で健全に育ったブドウはミネラルが Salin (塩気のある)」とディディエはよく言うが、今回のオート・コート・ド・ボーンはまさに塩味の効いたピュアなミネラルエキスを飲んでいるようで、透明感がありながらもしっかりとした旨味を感じる！五臓六腑に染み入るような上品な味わいは全く飲み疲れが無い！

AC オート・コート・ド・ボーン 2018 (赤)

2018年は2017年同様にブドウが早熟で収量の取れた当たり年だった。また、太陽に恵まれたこともありブドウはいつもよりもアントシアニンの量が多く、タンニン抽出しすぎないようにマセラシオンの間はルモンタージュのみで、ピジャージュを一切行わなかった。出来上がったワインはふくよかでコクがあり、果実味に太陽を感じるジューシーかつスパイシーな味わい。そこにカカオのようなタンニンと繊細な酸が加わり、全体的にまとまりの良いワインに仕上がっている！ディディエ曰く、今飲んで十分美味しいが、できればあと1~2年寝かせてタンニンと果実味に一体感が出てから飲むとさらに2018年の良さが花開くだろうとのこと。実際に、時間が経つほどオレンジットのようなフレーバーが立ってくる！

AC ボーン・1er クリュ オー・クシュリア 2017 (赤)

前年は春の遅霜の被害により全滅。今回は2年ぶりのリリースとなるオー・クシュリア。2017年はブドウが早熟で収量にも恵まれた当たり年だった。出来上がったワインは、前回の2015年よりも果実味がエレガントでボーン 1cru の女性的な柔らかさとフィネスがうまく引き出されている！ディディエ曰く、オー・クシュリアの畑はペルドリの生息が多く見られ、今回のワインはまさにペルドリ料理との相性がぴったりのワインに仕上がっているとのこと。なお、オー・クシュリアは2018年から新たに0.9ヘクタール畑面積が増え、現在2haの面積を所有している。オート・コート・ド・ボーン赤に並びモンショヴェのフラッグシップワインとなる予定だ。

ミレジム情報 当主「ディディエ・モンショヴェ」のコメント

2017年は、4月の霜以外は全体を通して気温が暑くブドウが早熟だった年。4月21日から1週間ほど寒波が襲い、ポマールなどは直に遅霜に当たったが、その他の畑は最低気温が-2~0℃くらいの範囲で収まったことと、冬が寒かったおかげでブドウの発芽が遅く、芽がそれほど伸びきっていなかったことが幸いし、前年のような大きな被害には至らなかった。5月に入ると適度に雨の降る初夏のような天気続き、ブドウの成長は一気にスピードを増した。病気もほとんどなく開花も全て順調。7月に入ると9月まで雨の降らない日照りが続いたが、5、6月の雨のストック貯えもありブドウの成長には全く支障はなかった。収穫はクレマンの8月30日がスタートで、8月の収穫は今までに経験したことがなく、歴史に残る収穫となった。

2018年は、2017年同様ブドウが早熟で収量にも恵まれた年だった。冬のスタートは雨が多く、また2月に寒波があり久しぶりに冬らしかった。4月終わりに寒波が降り、気温が0℃まで下がる霜のリスクがあり、さらに5月には何度か雹のリスクを伴う雷雨が立て続けに降ったが、畑は無傷だった。開花は順調。病気もミルデューが葉に少し繁殖しただけですぐ収まり、全体的に赤も白も豊作が期待された。6月に入り天候は一転、猛暑と雨の降らない日が収穫まで続いた。幸い、冬と春に降った雨のストックがあつたおかげでブドウは日照りの心配が全くなかった。最終的に収穫は、前年同様例年よりも2~3週間早く、果汁をたっぷり含んだ健全なブドウを取り入れることができた。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



写真① 新オーナーのボリスとディディエ

突然だが、モンショヴェは2019年ヴィンテージをもって35年続いたドメーヌの幕を下ろすこととなった。

これはコロナとは全く関係がなく、実は前からディディエがほのめかしていたことで、彼自身は引退後の余生を趣味である山登りに注ぎたいと事あるごとに話の中にこぼしていたが、まさか今年引退を決めるとは夢にも思っていなかった。

これは新しいオーナーとなるボリス・シャンピーとディディエと一緒に写っている写真。(写真①) 新オーナーとなるボリスは、以前ルイ・ラトゥールの醸造栽培の総責任者で、ルイ・ラトゥール=ネゴスワインというイメージにある種辟易していた頃にディディエに会い、そこからビオディナミに傾倒していったようだ。ディディエも、ドメーヌを引き渡すとしたら彼しかいないと運命を感じ、水面下の交渉の上、今年の4月に譲渡が決まったようだ。

これからのドメーヌ・モンショヴェの流れだが、ディディエが仕込んだ2019年のワインまではドメーヌ・モンショヴェとしてリリースを継続し、ディディエも月1回の訪問だが、瓶詰めタイミング等、今熟成中のワインに関し最後まで携わる。2019年のワインまではドメーヌ・モンショヴェとしてリリースする予定だ。そして2020年以降は、新たにドメーヌ・ボリス・シャンピーとしてドメーヌをスタートする。

今のところ新オーナーのボリスが言うには、モンショヴェのビオディナミの栽培スタイルは今後も継続し、醸造は徐々にボリスのスタイルを確立していきたいと思っているようだ。

いわゆるブルゴーニュ内では異端児で、ビオディナミ&正統派のヴァンナチュールのパイオニア的な役割を四半世紀続けた個性派ヴィニョロンがまた一つ時代の流れに消えていく…。彼の残した功績に敬意を表し、限りある彼のワインに真剣に向き合いたいと思う今日この頃だ！ (2020.7.7.ドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ